

言葉遊びの世界

~the world of
tongue game~

トンネルを抜けるとそこは不思議の国でした……。みなさん、ようこそ言葉遊びの世界へ！ この世界には、機知と美しさが溢れています。普段は味わえない言葉の醍醐味を楽しんでみてください。そして勉強で疲れた頭のリフレッシュをしてみませんか。
(小五郎)

言葉遊びってなに？

言葉遊び (tongue game) とは、言葉の持つ音の響きやリズムを楽しんだり、同音異義語を連想する面白さや趣を楽しむ遊びです。みなさんも友達や家族と「しりとり」や「なぞなぞ」を楽しんだことがあると思いますが、これらも言葉遊びの一種です。

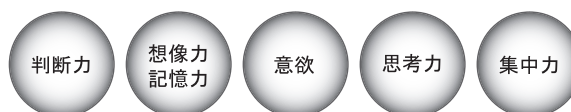
日本語による言葉遊びでは、掛詞のように、表音文字であるかなで表現した言葉に、表意文字である漢字の意味を掛けて、隠れたユーモアをより発揮する例もあります。例えば「あやめ」という言葉には、「菖蒲 (花の種類)」と「文目 (物事の道理)」の意味を掛ける事ができます。このように、日本語による言葉遊びは奥が深いといえるでしょう。

言葉遊びは一般には、子供の遊びや洒落 (しゃれ) として認識されていますが、有名なものにはマスメディアで発表・流布されたものや、「寿命無」を代表とする落語などの芸能の演目に残る古典的なものがあります。



言葉遊びの脳への効用

脳科学者であり、東北大学未来科学技術共同研究センター教授の川島隆太氏は、「脳を発達させるには脳の中の前頭前野を鍛えることが大切」と述べています。前頭前野を鍛えると、次のようなさまざまな能力を向上させることができるのです。



言葉遊びは前頭前野を鍛え、こういった重要な能力を伸ばすことができます。例えば、言葉遊びは何かを連想して楽しむものなので、発想力が鍛えられることは言うまでもありません。加えて、適切な言葉を選び出す判断力、想像力、思考力が向上し、見事な作品を作ろうとする意欲、集中力が生まれます。

普段私たちは、子供の頃から培われた常識的な考えのもと、固定化されたモノの見方しかできなくなってしまっています。しかし、言葉遊びでは『発想の転換』が必要なので、やっているうちに、私たちの□い頭はいつのまにか○くなっています。「楽しく考えながら、脳も鍛えることができる」。それが言葉遊びの最大の長所といえます。

それでは、どんな言葉遊びがあるか見てみましょう。

はみだし
すてーじ

編集長のファンに会いました。
⇒編集長のファンは多いみたいですね。

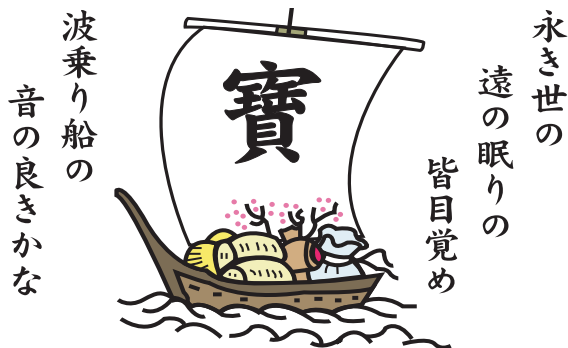
(法・2 子蟹)
(そんな編集長の実体は……；編)

● 主な言葉遊び ●

回文

回文とは、初めから読んだ場合と終わりから読んだ場合とで文字の順序が変わらず、なおかつ、言語としてある程度の意味が通る文字列のことです。文字数が多くなればなるほど回文を作るのは難しくなりますが、その分できた時の感動はひとしおです。

- (例) ① ^{ぼく} ^{くぼ} 僕は久保
 ② ^{なが} ^よ ^{とお} ^{ねぶ} ^{みなめざ} ^{なみの} ^{ふね} ^{おと} ^よ 永き世の遠の眠りの皆目覚め波乗り船の音の良きかな (宝船の絵に描かれる回文歌)



なぞかけ

「なぞかけ」とは、なぞなぞの一種と言える言葉遊びです。いわゆる「なぞなぞ」を「単式なぞ」と呼び、なぞかけを「複式なぞ」とよぶこともあります。なぞかけの形式は「AとかけてBととく。その心は？」と相手に問いかけるものです。見事ななぞかけを考えるには日本語の深い知識が必要になります。では、例を見てみましょう。

- (例) 「腐った卵」とかけて「夜道」ととく、その心は？
 → 「黄身(気味)が悪い」。

こういったものがなぞかけです。では、ここでなぞかけの問題を出してみましょう。あなたはわかりますか？

- ① 「金遣いの荒い人」とかけて、「何も食べられないし何も見えない」ととく。その心は？
 ② 「ミニスカート」とかけて、「結婚式のスピーチ」ととく。その心は？ (3代目三遊亭遊朝の作品)

答えはこのページの右下にあります。

はみだしすてーじ

そろそろ冬眠の季節だ。
 ⇒ そうですね。僕の友達も冬眠するようです。

アナグラム

アナグラムとは、単語または文の中の文字をいくつか入れ替えることで全く別の意味を言葉に持たせる遊びです。

文字列を逆順にして意味が通るかどうかを調べる回文とは異なり、n文字ならnの階乗通りの並び替えが可能のため、大抵の言葉はアナグラムにすることができます(やや強引な場合もありますが)。

- (例) ① one plus twelve = two plus eleven
 (1 + 12 = 2 + 11)
 ② Lifestage ⇒ I get a self (私は自己を手に入れる)

いろは歌

ここでは、いろは歌の紹介をします。いろは歌は、ご存知のように手習い歌として昔から親しまれてきたものですが、かな47音を並び替えたものであり、アナグラムの一種と言えます。47音をたった一度ずつしか使わないにもかかわらず、いろは歌は、文章として正しく通じる意味を持っており、その作者は稀代の天才とすることができるでしょう。実は、いろは歌には巧妙な言葉遊びが織り込まれているのです。

右のように、いろは歌を7字ごとに区切っていくと、「とかなくてしす(咎無くて死す)」という言葉が浮かび上がります。このように、文章の中に新たな文脈を織り込ませる技法を折句(あじく)といいます。

文の内容と複雑さから、いろは歌は無実の罪を着せられて死んだ万葉歌人、**柿本人麻呂**が怨念を込めて残した暗号ではないか、との推理もなされています。

* **柿本人麻呂**……飛鳥時代の歌人。後世、歌聖と呼ばれ称えられています。万葉集第一の歌人と言われますが、彼の生涯はまだ謎に包まれています。

いろはにほへど
 ちりぬるをわか
 よたれそつね窓
 らむうるのおく
 やまけふこえで
 あさきゆめみし
 えゑもせす

みなさん、いかがでしたか？ これ以外にもさまざまな言葉遊びが存在します。みなさんも是非いろいろな言葉遊びを知り、楽しんでみてください。

「^な ^ら ^ま ^の ^ま ^の ^ま」②
 「^い ^ろ ^は ^に ^ほ ^へ ^ど」①
 ~と景の願留~

(教・3 ジジ)
 (お腹がふくらんでいました；編)